

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600066
法人名	株式会社 寿エンタープライズ
事業所名	グループホームいずみ
訪問調査日	平成20年4月2日
評価確定日	平成20年4月26日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 4月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600066号
法人名	株式会社寿エンタープライズ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	横浜市泉区和泉町7600-4 (電話) 045-806-1720

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年4月2日	評価確定日	平成20年4月26日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 28日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7人	
職員数	12人	常勤 7人	非常勤 3人	常勤換算 10.1人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2 階建ての (1)階 ~ ()階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 ・ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月28日 現在)

利用者人数	7 名	男性	3 名	女性	4 名
要介護1	名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77 歳	最低	67 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘中央病院、芳洋会横浜寿光会クリニック、康寧会、ハートケア左
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は横浜市泉区の北部に位置し、静かな自然あふれる環境にあり、平成19年4月に開所したグループホームです。ホームの事業主体は医療施設や介護施設などを経営している病院グループの関連会社で、グループホームやデイサービスを数箇所運営しています。

ホームでは医療連携体制加算の指定を受け、協力医療機関の病院との連携がとれています。入所時に、利用者の急変時や重度化した場合の対応を説明し、安心して過ごせる環境と楽しく暮らせる生活のリズムに努めています。利用者は家庭的な雰囲気の中で穏やかな安心と心癒される生活を送っています。

広報誌「ふれあい」新聞(第2号)を発行しており、その中で訪問歯科医からも愛情一杯満たされたすばらしい施設と評価されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設が平成19年4月で、外部評価は今回が初めてです。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、外部評価の意義やねらいを正しく理解して、職員を自己評価に参画させ、意見を盛り込み、気づきに発展するように働きかけています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、開所後まだ1年ですが、既に3回実施しています。会議ではグループホームの運営や行事を説明し、地域の情報や支援に関する情報交換と協力と理解を深めるように努力しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは「ふれあい」新聞を発行するほかに、担当係とホーム長から毎月の便りや、利用者一人ひとりの暮らしぶりやホームの様子をきめ細かに知らせています。家族会を設けており、ホームの行事や、家族懇談会を開いて意見や要望等を汲み取る機会としています。また、家族の来訪時には、気軽に要望が話せるように声掛けをして対応しているほか、運営推進会議でも意見交換や要望等を話し合っています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方からは野菜等を分けていただき、ボランティアの方に畑造りを手伝ってもらったり、ホームでのバーベキューに招いたり、交流を深めています。ホームの隣接地のウメの実をもらったり、畑を借りて野菜づくりをして、地域の方の好意に支えられています。町内会に加入しており、清掃をはじめ各行事に参加して、ホームと利用者の理解を深めるようにも努めています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念としては、開所時にスタッフが話し合って決めた「愛と思いやり」「個人を尊重」「楽しく暮らせるホーム」「地域に愛されるホーム」を開設当初から掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関フロアと事務室に掲示し、職員に浸透するように日頃の会話やミーティングの中で話し合っています。管理者や職員は日々のサービスを提供する場面において、理念を意識しながら一人ひとりの日常生活の暮らし方に合った介護・介助を行っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入し、町内会主催の行事に参加して交流を深めています。ホームの隣の農家の方から新鮮な野菜をいただいたり、近くの散歩時に気軽に声を掛け合い、地域の方とふれあいを持ちながら暮らしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は評価の意義やねらいについて理解し、職員に自己評価票について説明し周知を図り、職員が参画して意見を盛り込み、ホーム長がまとめて作成しました。評価項目の中から気づきに発展させ、日常の介護・介助の取り組みにも活かすように努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民の代表者、利用者家族の代表、地域包括支援センター、それに行政等が参加して開所以来すでに3回開催しています。会議では、意見交換し、今後の活動予定、行事の立案等を話し合い、理解と支援を得て貴重な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政の担当部署へ事業所の運営や現場の実情、業務上の問題点を伝え、入所希望者の情報連絡を密にしています。行政主体の地域のグループホームの連絡会に参加し、情報交換や交流も図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、毎月、金銭出納帳や領収書と担当係とホーム長からの「近況報告」および随時発行の「ふれあい」新聞を送付して、利用者の健康状態や状況報告を知らせています。また、家族の来訪時には声を掛け合い話し合い、体調変化時には電話にてその状況をただちに連絡し報告しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会は開所後、平成19年7月、9月、平成20年3月の3回開催し、家族から意見や要望等を聞き、運営面に反映するように努めています。重要事項説明書には、苦情・要望・相談等の窓口として、ホーム、外部および第三者の窓口を記載し、契約時に説明しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後1年で、職員の異動はまだ少ないですが、運営法人内の異動や離職を最小限に抑え、利用者や家族への不安の原因とならないように努めています。新しく職員が入る場合には、事前に利用者へ報告をして受け入れ体制を整えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の質の確保と育成が不可欠であることを理解し、常勤・非常勤の区別なく外部研修への参加を勧めています。研修後は研修報告書を作成し、回覧する等職員間で共有化を図っています。日常的には、毎日の介護の中で利用者に対応しながら、OJT(仕事を通じての訓練)を行っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政区内のグループホーム連絡会に参加し、お互いにサービスの質の向上に取り組んでいます。今後も近隣の同業者と連携し、日々のサービスや職員の人材育成に役立つ実践的な交流や連絡に心掛けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者・家族が納得して入居できるようにするために、入居前にホームを見学してもらっています。その後利用者・家族と話し合い、申し込みを受け、入居の可否を決めて徐々に馴染んで行けるようにしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念を抱き、暮らしの中でわからないときは教えてもらい、お互いに思いやりを持って一緒に支え合っています。そして日常の関わりの中で、自然に学び共に支え合う関係を大切にしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、家族の状況や生活歴等を考慮の上、利用者の日々の行動や表情から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を把握するように努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書はケース記録等から、本人・家族の望むことや、そのためにどういう援助をしたらよいかを話し合い、その意見や要望を反映して作成しています。また、職員はアセスメント表に基づいて話し合い、モニタリングし、再度ケアカンファレンスを行い、計画の作成をしています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書は、利用者と家族と連絡をとりながら、通常3ヶ月毎に見直しを行っています。本人の変化や家族の要望等により必要に応じて随時見直しも行っていきます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受け、週に1回の看護師の訪問および24時間連絡体制をとって、安心して暮らせる支援をしています。また、利用者・家族の要望に応じて、訪問歯科医の歯科治療や口腔ケア、通院介助や外出等の柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医の受診の支援をしています。特にかかりつけのない場合には、ホーム主治医の往診による月2回の内科、週1回の歯科検診により、適切な医療を受けられるようにしています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所後1年ですが、ターミナルケアに向けて医療連携体制加算の指定を受けています。「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し、同意を得ています。利用者の急変時や重度化した場合、当ホームの考え方を説明し家族とホーム主治医・職員が連携し相談して準備を進めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの個性を受容し寄り添ったケアを心掛けています。プライバシーを損ねることのないように、本人の立場にたって、場所や内容等も考慮しながらの言葉かけや対応を行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がその日にしたいことや、散歩、入浴、買い物等、その都度声掛けをし、健康面に留意しながら、希望に合わせて支援しています。また、利用者に1対1で担当者を決め、きめ細かなケアが出来るようにも努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、外部の業者に委託してカロリーや栄養のバランスのとれた食材を考えています。週に1回は利用者と一緒に考えて作り、外食も楽しんでいます。また、調理の下ごしらえや後片付け、洗い物等、利用者の力量に応じて、見守り支援をしています。本格的にお茶を点てて楽しむこともしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則的には曜日や時間を決めています。利用者の要望があれば、ゆっくりと長い時間をかけて入浴できるように配慮もしています。お風呂では職員と1対1で、世間話をしたりして楽しんで入浴ができるように支援しています。入浴を拒む利用者には、無理強いせず、声掛けのタイミングや方法を変えながら入浴支援をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、掃除や食事の下ごしらえ、食器洗い等の役割を見出しています。また、お花見や運動会、バーベキュー等の行事を多数催して、利用者の元気な笑顔が見れるように努めています。利用者に職員一同から感謝状や賞状を贈り、張り合いを持つように工夫しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、ホームの広い駐車場を利用してお茶を飲み食事をし、散歩やドライブにも行き、戸外に出掛ける支援をしています。地区センターの展示会や区の催し物の餅つき大会へ参加し、戸外へ出掛けて気分転換と楽しみとなるように努めています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最近では物騒な事件が多く、安全面と防犯上施錠していますが、玄関は鍵をかけない自由な暮らしを支援しています。外出傾向にある利用者には散歩や買い物へ行き、その人に合わせた対応をしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年4月に消防署の指導による防災訓練を実施しました。地域の火災予防協会へ加入し、ホーム内の防災委員会を立ち上げて、情報収集と連携強化、職員の災害に対する意識付けを高めています。また、非常食や備品を備えています。		さらに地域の方々の協力・参加を得て、防災訓練・避難訓練を定期的実施することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は摂取カロリーや栄養バランスを考慮しながら美味しい食事作りに努めています。刻んだりつぶしたりお粥にする等、一人ひとりの身体状況に合った食事の提供をしています。食事は、毎食後日常生活記録表に記録し、一人ひとりの健康状態の把握に心掛けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、採光・日当たり等の条件もよく、建物全体が明るく広々と作られています。ホーム内には鉢植えの花が多数置かれて心を和ませてくれます。居間には、ベンチや、腰掛けにも丁度よい高さに畳のコーナーもあり、くつろげる空間づくりとなっています。非常口の扉にはスライド式の通風孔があり、換気および室温の配慮がなされています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、机、タンス、テレビ、ぬいぐるみ、家族の写真等の本人の好みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるように配慮されています。また、エアコンと換気扇が備えられ、快適に暮らしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいずみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 畠山京子
記入日	平成20年3月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念を踏まえ、ホーム独自の理念を作り上げている。毎月の職員カンファレンスの中で、理念を理解してもらえるよう務めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に文書を渡し、理念を伝えている。また、玄関・事務所・休憩室に張って、職員が日常的に目にするようにしており、内容を理解していただくため定期的にミーティング等で伝えるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	開設後、民生委員の会議に参加させていただき、説明した。また、運営推進委員会・家族会を定期的に開いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周囲の畑で農作業される方と親しく話し、野菜を分けてもらったり、購入したり、行事に参加してもらったりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会員になっており、行事等には出来る限り参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターと連携を図り、施設で取り組める範囲で、また状況に応じた認知症介護の支援をしていきたい。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ホーム長会議・職員会議・毎日の申送りで、折に触れて話題にして意識を高める様にしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年2度の運営推進会議を開き、そこでの意見や情報を基に、行事の立案や職員の勤務に役立てている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>横浜市と泉区の指導の下に、8箇所のグループホームでチームを作り、意見交換や協力をしている。また、区のサービス課との連絡を密にし、入居希望される方等の情報交換に務めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は該当者なしであるが、今後は学ぶ機会を作っていきたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者会議の中で、「身体拘束廃止・接遇マナー向上委員会」という形を設置し職員がお互いに啓発できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけて納得していただいた段階で契約を結び、契約時には最終確認をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも入居者の意見には耳を傾け、それについて話し合い、経過を見ながら、さらに話し合っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月毎に定期的に近況報告をするほか、健康状態や購入依頼や気付いた事など、細かにお知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来られて時や電話等で、気軽に要望や意見を聞かせていただけるよう務めている。</p>	
16	<p>)</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議(業務カンファレンス)等を通じて広く意見を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ゆとりある職員数が確保されている。また、勤務調整には職員同士で話し合い協力し合っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動については行っていない。離職を抑えるため、退職希望者にはヒアリングを行い、問題解決へ努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内における勉強会の実施を奨励すると共に、外部の研修案内を告知している。更に、必要と認められた研修に関しては費用の負担を行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの連絡会を発足予定	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設訪問時に職員への声掛けを行い、意見の言い易い環境作りを心がけている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に人事考課を行い、上長が評価を実施している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時や居住されているところを訪問した際に、複数の職員で聞き取るようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間をかけて説明もし、お尋ねもして、行き違いや無理解が生じないようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一緒に考えながら、当ホーム以外の利用も示唆している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の情報を事前に職員で共通理解し、すでにいらっしゃる入居者にも新しい方の入居をお知らせしておき、入って生きやすい雰囲気作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事や行事に、人生の先輩としての知恵や知識を語っていただき、助けてもらっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や問題点を相談し、職員とは罰の働きかけをしてもらっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	どちらの話も聴き、間に入ったり、連絡をみつにとるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の代筆をしたり、面会に来られて際の対応等で、良い関係作りをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入って会話の糸口を作ったり、状態や言動を説明したりして、お互いに好意を抱き合えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者無し		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを事毎に尋ね、尊重し、無理強いしないようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの方との会話の時間を大事にしており、自分から身の上話や経験を話して下さっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	細かな気付きや状態の変化を、共通認識できるよう、職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの援助希望や家族の援助計画を踏まえ、話し合っ て介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化を見ながら、見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに詳しい記録を残している。体調の変化は、経過を追って記録している。また、それに基づき話し合いをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し、病状等の変化や不安に対応できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日々のレクリエーションや行事等にボランティアの方に協力してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用は行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの集いに参加したり、主任ケアマネジャーに訪問していただいたりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の意思を尊重し、主治医を選んでもらっている。ホームの主治医とは、いつでも相談できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医が提携病院への受診が必要と判断した際は御家族様に相談の上、同行より受診となっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応してくれる看護師に相談しながら、利用者の健康管理をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医と提携病院の連携が取れている。また、入院先の相談員と頻繁に連絡を取り合うと共に、度々お見舞いにも行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに向けての方針を作り、家族にも示し、準備を始めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極める前段階として、病気の種類ごとに検討を始めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当者なし(問題発生時にはすみやかにご家族との細やかな話し合いが必要となっていくと思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けの声の大きさや場所、あるいは言葉や話の内容・言い方に配慮している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>易しい表現で、わかりやすい説明になるよう心がけている。さらに、時間をあけて再度説明するなど、利用者の理解度に合わせている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>無理強いや押し付けにならない声掛けや予定の組み方に心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者のお好きな着こなしをしていただいている。理容・美容は十分に希望を聞いて、その希望に添うようやっってもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材を配送してもらい、レシピを参考に調理しているが、味付けやコツを利用者に教えていただいたりしている。下膳や後片付けを手伝ってもらうこともある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食材を配送してもらい、レシピを参考に調理しているが、利用者の好みに合わせて味付けを変えたり、状態に合わせて形態を変えたりしている。また、水分補給時には、希望を聞いてお出ししている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	出来るだけ、布のパンツを使用させていただきようになっている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入居者が増えたため、入浴の曜日を決めましたが、体調や希望を考慮して変更できるようにしている。健康面で大丈夫であれば、希望される時間		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	生活習慣や身体の状態・気分により、居室でやすんでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	日常生活の中で(毎日ではないが)食器洗い、掃除等できる範囲での役割分担が出来ている。外気浴を兼ねた買い物、散歩、レクリエーションなどの参加により楽しみを提供できていると思う。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人の希望により、職員が同行して買い物をしたり、代理で購入したりしているが、現金を自己管理されてはいない。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩・ドライブ・外気浴・戸外でのお茶へのお誘いを日常的に行っている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	外食・展示会・催し等へ、月に1・2度お誘いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば、代筆でお手紙を書いたり、電話をかけて受話器を渡したりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に訪問してくださるよう頼んでいる。また、いつでも訪問のあることを想定している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中身体拘束は行っていない。夜間のみ、飛び出し防止のため入口に施錠している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は外から進入できない防犯のため、玄関の中から施錠している身体拘束は行っていない。夜間のみ、飛び出し防止のため入口に施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内に居られる時はドアを閉めた状態でプライバシー保護に努め、訪室して安全確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	出しておいてよいもの、出しておく時間帯を決めており、見守りを欠かさないようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の様子観察で得た一人ひとりの状態や危険の予測を報告し話し合っ、事故防止に努めている。また、ヒヤリハットの報告を基に対策検討会を開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	危機管理マニュアルを作っている。また、社会福祉施設等救急法指導会に交代で参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	泉火災予防協会に4月から入会を予定している。また、町会の避難場所等の利用を許可されている。消防署の職員による消防訓練やホーム内での訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体の状況や変化をその都度家族に報告して、起こり得るリスクを話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜間の様子、毎日2回のバイタルチェック、排泄状況、入浴時のボディチェック等での気付きを報告し合い、主治医への相談や早期の受診を心がけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの処方箋をファイルにして、誰もが直ぐに見られるようにしている。体調の変化があれば主治医に連絡して、用法や用量の変更の指示、あるいはとんぶくの指示をもらい実行している。また、記録に残している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消に良い水分の内容や量、あるいは食べ物を取ってもらうようにしているが、それでも便秘の方には主治医の指示により下剤を飲んでもらっている。また、毎日の体操を欠かさないようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに合わせた介助で欠かさずやっている。また、訪問歯科医の指導や助言を介助に取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月毎の体重の変化やバイタルチェックを参考にして、水分の確保し食事量と食事形態を決めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種と白癬菌の方の受診を行っている。感染防止委員会を設け、感染対策研修で学んだことを報告し、ノロウイルス対策として実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注して取り寄せている。室温保管せず、冷蔵庫・冷凍庫で保管している。生の肉魚介類は出していない。また、曜日ごとに清掃場所を決め、毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の住宅や自然に合うように心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しく心とみ、季節感の感じられるような装飾を心がけている。また、工作等には一緒に参加してもらっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみコーナーや二人がけのベンチを置くなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人と家族の方の思いや希望を尊重して、持ち込むもの を選んでもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気は24時間換気扇を使用している。冷暖房の調節は利用 者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、ベットの位置や家具の配置を 決めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室やトイレ等がわかるように名前を書いて貼るなどしてい る。個人持ち物にはそれぞれの名前をつけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダでの外気浴や、駐車場での散歩や運動会お茶会食 事等、季節に合わせて利用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然に囲まれた環境にあるホームで、開所して1年になります。この雰囲気大切に、入居様が散歩したり、家庭菜園で野菜を作ったり、戸外